



子ども宅食おすそわけ便1周年記念イベント  
記念講演

# 子ども宅食の意義と可能性

一般社団法人 こども宅食応援団  
認定NPO法人フローレンス



# 自己紹介



一般社団法人こども宅食応援団 事務局  
認定NPO法人フローレンス こども宅食事業部  
全国事業普及チーム サブマネージャー  
**本間 奏**

- 弘前市で生まれ、祖母は大鰐町
- 総合商社の法務部門・営業部で、各国での新規事業立ち上げや、事業運営にかかる
- 2019年2月からフローレンス代表室で新規事業立ち上げ担当、応援団の経営企画担当
- 2020年4月からこども宅食全国普及チーム

# とどける、つながる、つなげる こと も宅食

こども宅食は、食品とともにアウトリーチ※によって支援を届けることを目的としています。食品の配送は、利用家庭の生活を支えながら、つながりを生み出すための手段でもあります。

LINEや配送時の対面によるやりとりの中で、安心したつながりを少しづつ育っていくなかで、生活状況を把握したり、状況が悪化するときの予兆を見つけていきます。そして、必要な情報や機会、適切な支援を提供していくことをめざしています。



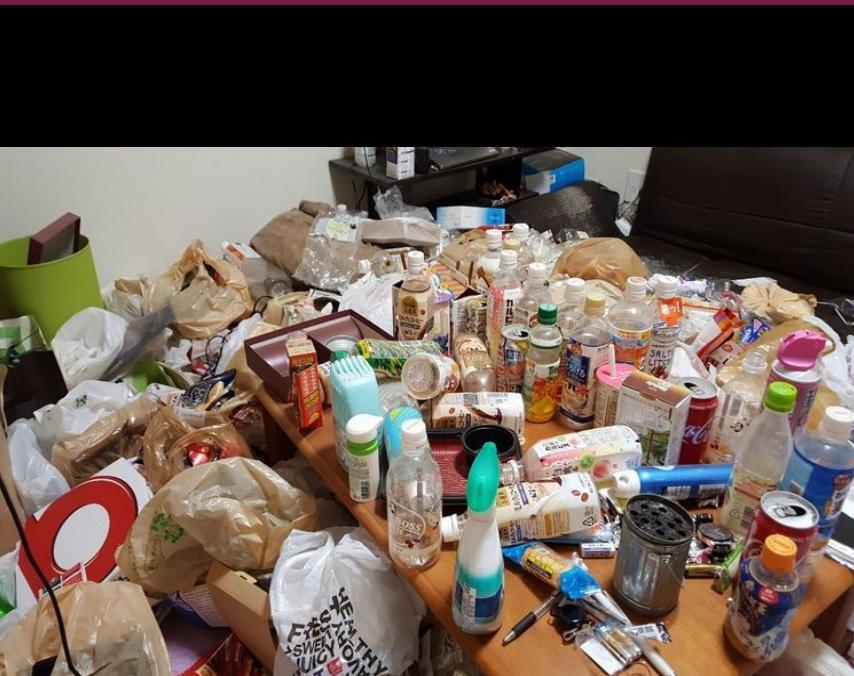
単なる食支援ではなく、定期的な食支援を **ツール** に、  
つながりを作り、子育て家庭を伴走する事業です





こども宅食で出会ったご家庭

# SOSを上げにくい(援助希求力が弱い)家庭



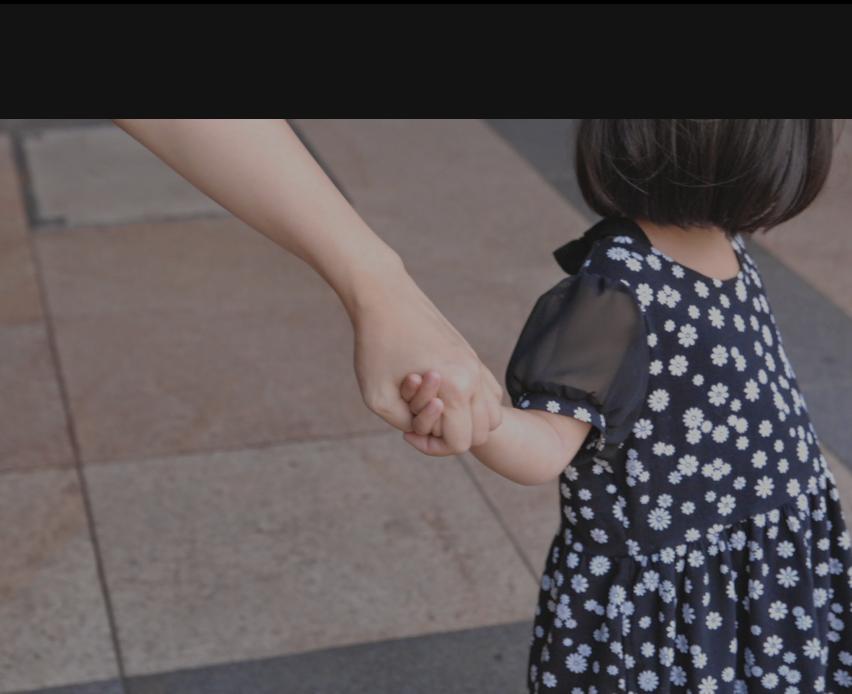
- シングルマザーと子どもの親子
- 幼稚園から卒園後のフォローを要請される。
- 困窮状態の上、母親は仕事をしておらず精神的に不安定な状況。子どもは不登校になり社会から孤立。
- 何度も家庭訪問を重ね信頼関係を築き、ようやく家の中に入れてもらうことができ、中を見るとゴミ屋敷の状態。
- 一緒に部屋を片付け環境を整えたとき、親子の変化を感じる。必要なのは食支援だけではなく、悪循環から抜け出すサポート

# 知的障害などにより自分の課題が把握できていない

- 母親に軽度の知的障害がある、ひとり親家庭。  
子どもが3人おり、食事の提供も含め養育が  
難しい状況。
- 保育所から「子どもが食べていない様子なので、  
様子を見に行ってほしい」とこども宅食事務局  
に紹介があった。
- 本人は、**自分できちんと自活できていると  
いう認識で、支援を求めない。**
- 定期的なこども宅食の接点を通じ、家事支援や  
手当の手続、子どもたちを学習支援などにつなぐ。



# 行政への拒否感が強い



- 妻は若く、夫は障害があり仕事をしていない。
- 児童相談所に子供が保護された経験などもあり、**行政に対する拒否感・怒りが強い**。新たに子どもが生まれた際も、保健師の訪問も拒む。
- 民間団体のこども宅食は抵抗感があまりなく、訪問を受け入れる。こども宅食を通じ、家庭との定期的な接点を維持しながら、見守りをしている。

# 国の基本方針でも、「支援が届いていない、又は届きにくい子供・家庭に配慮して対策を推進する」ことを基本的方針として明記している、が・・・

※子どもの貧困対策大綱（令和元年11月29日閣議決定）

## 基本的方針(分野横断的)

1

貧困の連鎖を断ち切り、  
全ての子供が夢や希望を持てる社会を目指す。

2

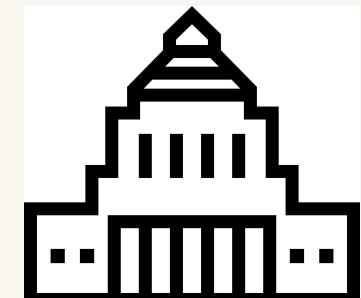
親の妊娠・出産期から子供の社会的自立までの  
切れ目のない支援体制を構築する。

3

支援が届いていない、又は届きにくい子供・家庭に  
配慮して対策を推進する。 New

4

地方公共団体による取組の充実を図る。



私達が全国の皆さんと一緒に  
目指したいこと

支援が届きにくい家庭を取り残さない、  
新しいアプローチを皆で作って広げる

# 新しいアプローチで解決しなければならない2つの課題



『行政から見えない層』が支援につながらない



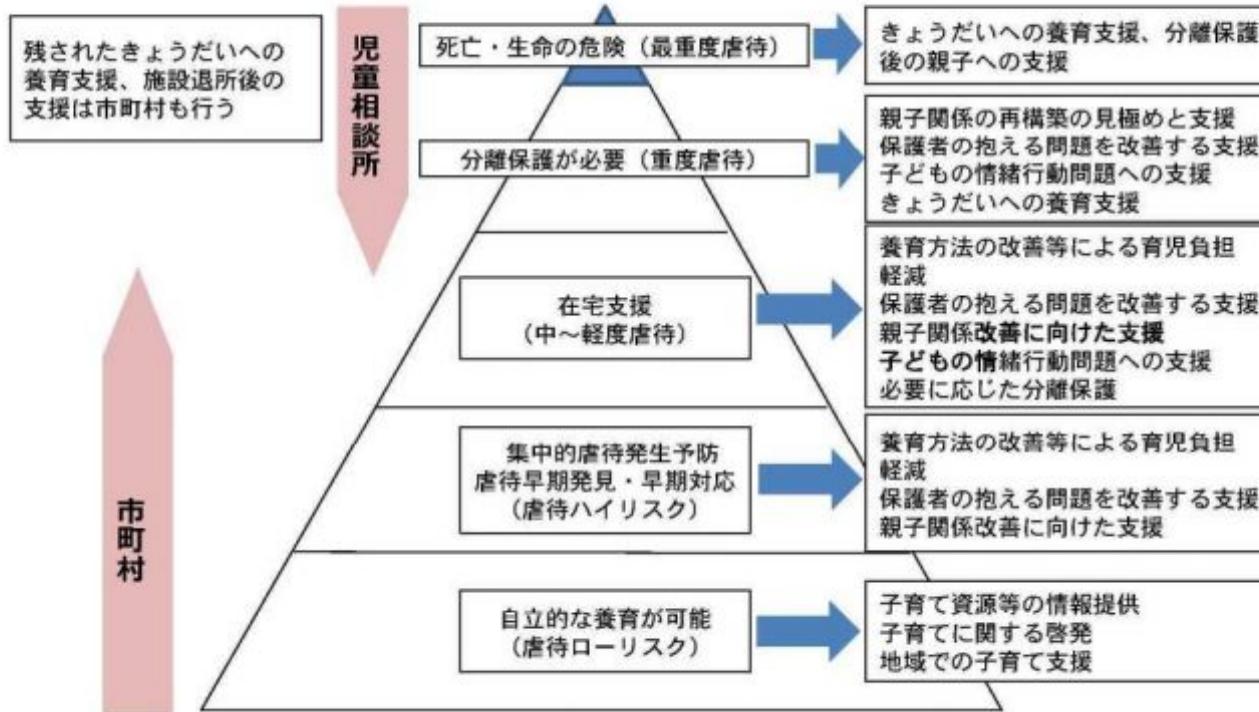
『関係構築』が足りず 支援につながりにくい

『行政から見えない層』が支援につながらない

# よく使われる「家庭のリスク度合いと対応策」の図

## 虐待の重症度等と対応内容及び児童相談所と市町村の役割

出典元：子ども虐待対応の手引き（平成25年8月改正版）

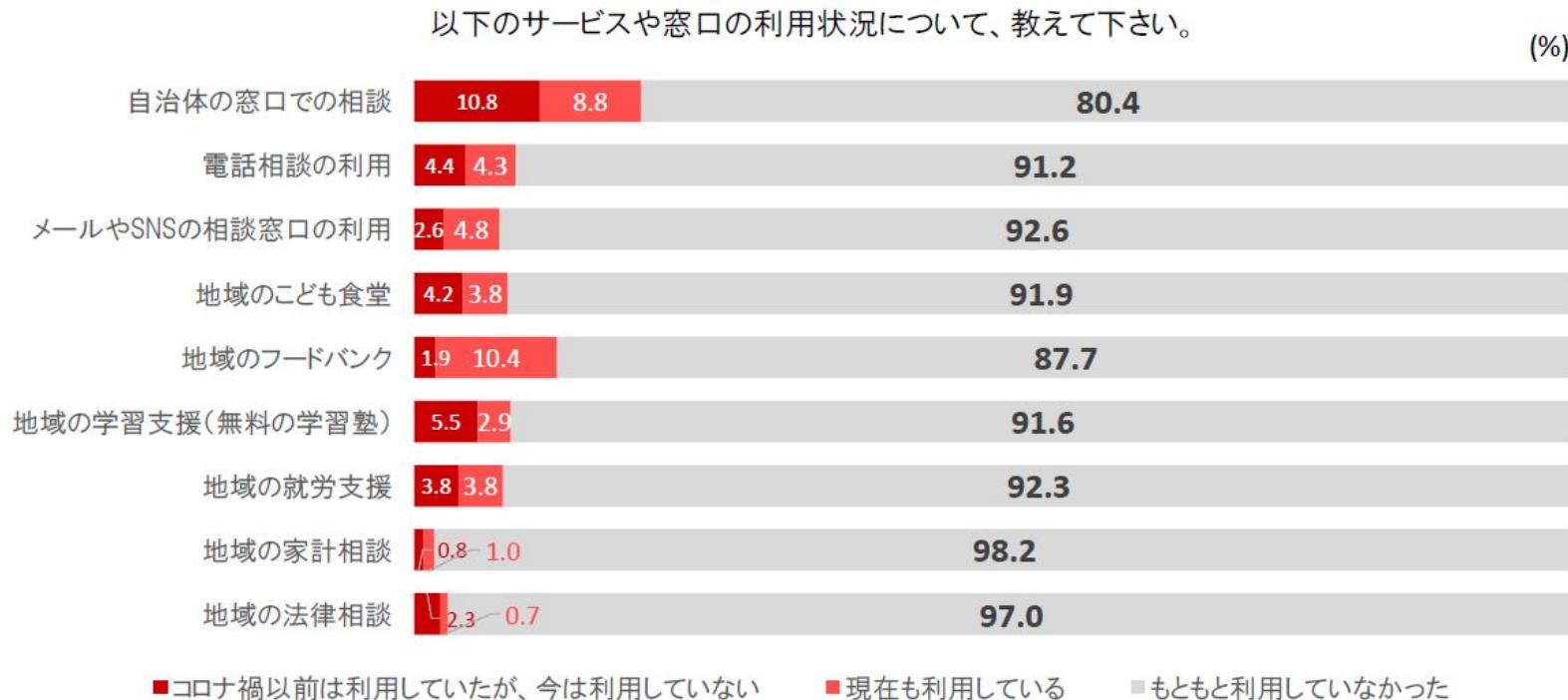


現実には「行政等が状況を把握している家庭」だけでなく  
「行政や支援につながっていない家庭」が存在している。



関係構築が足りず、  
支援につながりにくくなっている

**困難を抱えるご家庭では支援サービスの利用率は低く、8割の人が利用していない。既存の方法では、家庭に支援が届きにくい現状がある。**



# 支援が届きにくいのは、社会に様々な制約や障壁が存在するから。



## 心理的な障壁

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは

私より困っている人がいるんじゃないかな、私なんかが利用していいのかなという思いがあって。

昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあって。もう関わりたくない。



## 物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。平日に窓口に行く余裕がない。

フードバンクやこども食堂に行きたくても、ガソリン代や駐車場料を出すお金の余裕がないんです。



## 周囲のまなざし

プライドなのかもしれないけど、貧しい、生活が苦しいというのを周りに知られたくなくて。特に保育園の人には。

田舎町の○○市で支援を受けることは…何人も顔見知りがありますので…子ども食堂やフードバンクもありますが利用できません。



## 情報の伝達

どうやって支援団体に助けを求めたらいいかも、わかりません。

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと届かないし、支援自体が少なすぎる。

# 困っていても（支援ニーズが分かっても）、 支援には簡単にはつながらない！

## 支援ニーズ

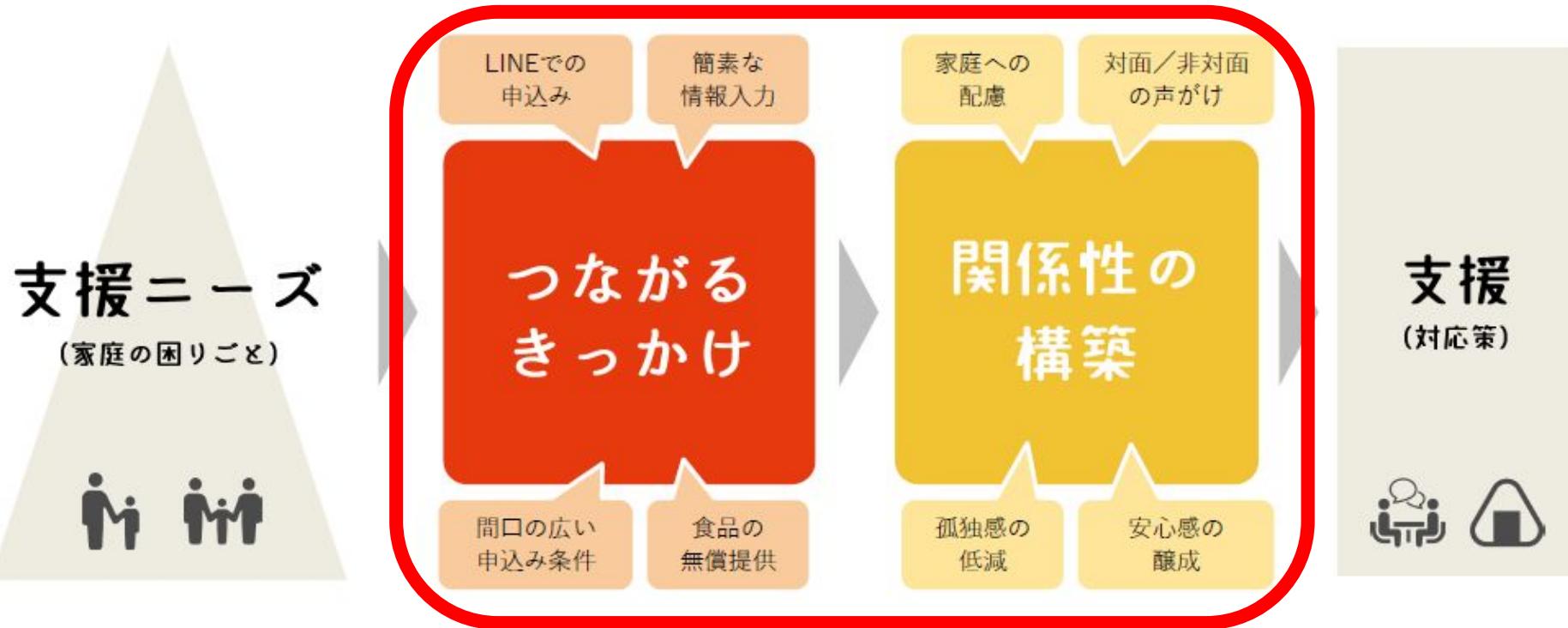
（家庭の困りごと）

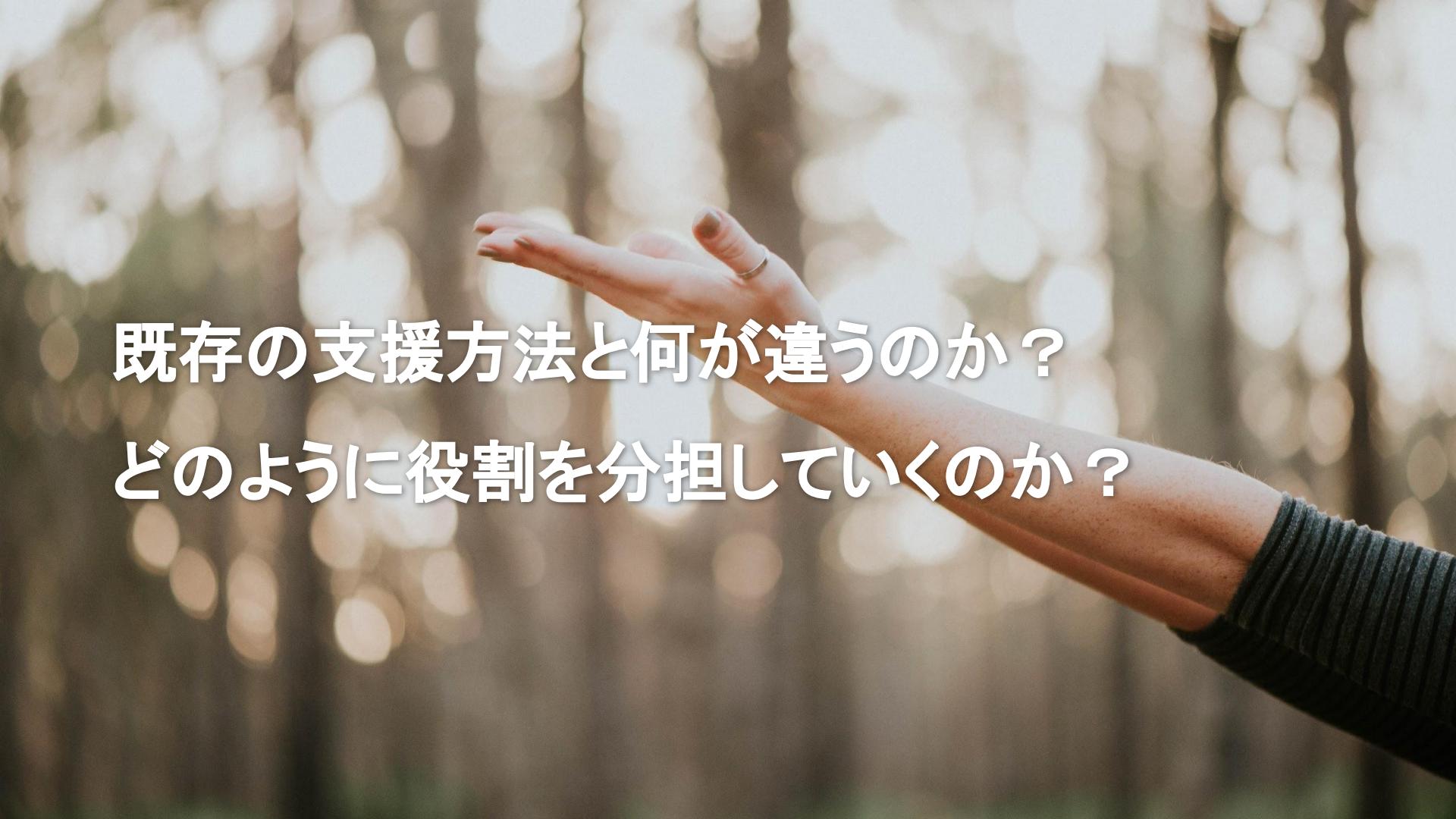


## 支援 (対応策)



つながるきっかけと関係性の構築をプロセスに入れることで、  
つながりにくい家庭が支援を受けやすい環境をつくる





既存の支援方法と何が違うのか？  
どのように役割を分担していくのか？

## 地域におけるこども宅食の位置付け

こども宅食を「専門的支援へのつなぎ」として位置づけることで、ご家庭が支援を受けるための心理的、物理的なハードルを下げ、既存の専門的支援によりつなげやすくしていくことができると考えています。



支援とつながりにくい家庭とつながるためのきっかけづくり、つながった後に家庭と信頼関係を築いていくためのコミュニケーション、多様な課題、事情を抱える家庭への様々な配慮など、実施団体の方々は個別性の高い家庭と向き合い、日々現場で工夫をしながら事業を推進されています。

こども宅食では「周りの目が気になりSOSを上げられない」などの理由で、  
**居場所型事業だけではつながれない家庭**にもアプローチできる。  
それぞれが地域の中で共存し、補完しあうことが必要であると考えています。

	こども食堂・ フードバンク	こども宅食など アウトリーチ型食支援
対象	比較的つながりやすく 支援が届けやすい家庭や、 コミュニケーションに前向きな家庭。	つながるのが難しく、 支援が届きにくい家庭
支援	周囲から見られる支援	見られない支援 (偏見やレッテルを回避できる)
接点	定期的な接点を確保しにくい (=来所は自由。強制できない)	定期的な接点を自然に確保できる

# 一人で課題を抱え込む親子にも…「食」は万人に効く強力なツク

難しい手続の相談窓口には来られなくても、「無料なら食品がほしい」というSOSは比較的どんな人でも出しやすい。援助要請が弱い人でもつながりやすいのがこども宅食です。

中には、行政に不信感・拒否感がある場合や、本人は相談したくても親や配偶者に『相談になんか行くな』と言われるケースも。

「食品を手渡すために」という理由があるので、自然に・定期的につながりを持てるのが強みです。

三股町  
のちほど事例紹介  
!



松崎亮氏

- 三股町社会福祉協議会
- 生活支援コーディネーター
- 三股町「みまたん宅食どうぞ便」事務局
- こども宅食の他のこども食堂、無料学習支援、引きこもり児童向けの新規事業などの企画・運営
- 近隣自治体でのこども宅食事業の立ち上げサポートを行う

# いまの福祉には専門的支援への「つなぎ」が必要



医療・福祉・法律相談など連携してくれる専門的機関は地域にきちんとある。

ただ、そこまで行きつくことが出来ない家庭をつなげていく「入り口」が必要であり、その役目を担いたい。

## 山本倫子氏

- 長崎市版こども"宅所" つなぐBANK事務局長
- 長崎県ひとり親家庭等自立促進センターセンター長(※長崎県子どもの貧困総合相談窓口／長崎県にんしん SOS相談窓口も新たに開設)
- 一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長
- 元・長崎県社会福祉協議会勤務

# 「居場所が苦手な人もいる」前提で事業を組み立てる必要がある

コロナ禍で、LINEや電話で予約してお弁当を取りに来てもらう事業を開始。そこで「今まで子ども食堂に来ないタイプの親子も来ている」ことに気がつきました。

周囲の目が気になる人や、コミュニケーションが苦手な人でも最初の入り口として利用しやすいのが「こども宅食」。

地域には、子ども食堂という居場所、事情があり居場所に来づらい人向けのこども宅食、それぞれの役割があり両方必要です。



金子淳子氏

- 金子小児科院長
- 山口県小児科医会副会長・乳幼児保健検討委員会委員長
- 赤ちゃん成育ネットワーク事務局長
- 国立成育医療センター新生児科レジデント、山口大学周産母子センターに勤務後、開業
- 島根大学医学部卒業、山口大学医学部小児科学講座

A photograph of a person's arm and hand reaching out towards a dense forest of tall, thin trees that are glowing with a warm, golden light, creating a bokeh effect.

こども宅食で目指す成果

応援団が連携している  
こども宅食を実施してい  
る自治体数

110 自治体

応援団が連携している  
こども宅食の事業数

75 事業

こども宅食を  
利用している世帯数

約10,000 世帯



# 推進体制や活動内容は、地域や実施団体によってさまざま

こども  
食堂主体

**食支援活動が  
ベース**  
悩み事対応として出  
口となる  
支援活動を拡げる

フード  
バンク

任意団体

母子会

保育  
事業者

児童家庭  
支援センター

**専門的相談が  
ベース**  
支援への入口を  
広げるために  
食を活用

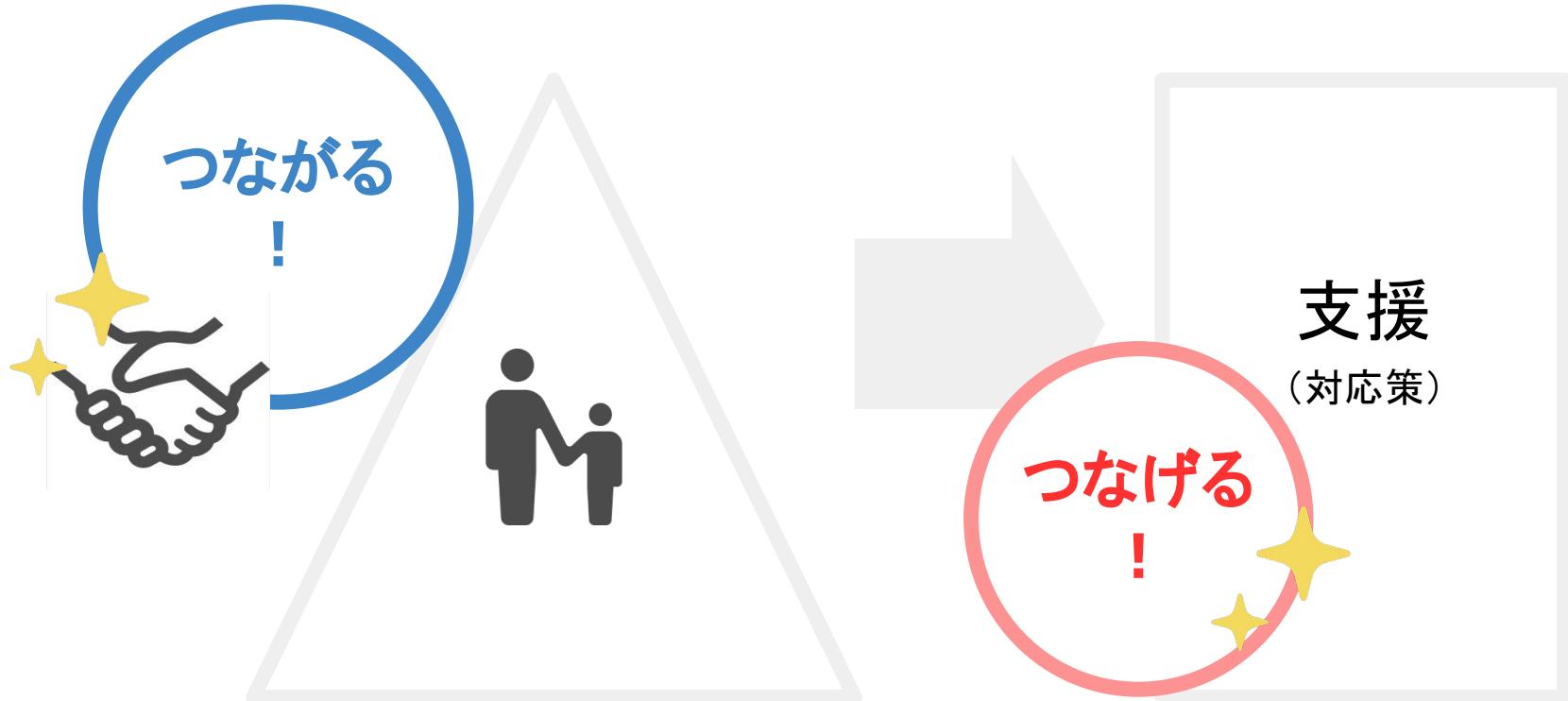
医師や  
病院

社協

# お届け品も、地域や団体ごとに工夫している



…しかし、目指す「**成果**」は同じ！！





NPO法人 フードバンクはりま  
11月17日 17:29 ·

本日、2年間定期支援をしてきた母子家庭が支援を卒業しました。

夫からのDVから逃れるよう母子ともに家を出て身を隠すように過ごしていた時に出会いました。

その間に調停を経てなんとか離婚にたどり着きました。

離婚が成立しないと母子扶養手当は当たりません。

体調を崩した時には、頼る人もいないので、「病院に連れて行って欲しい。」といって電話してきたこともあります。

慣れない仕事で精神を悪い、転職してなんとか落ち着いてきたところでコロナで収入大幅減。

今でも、厳しい状況ですが、なんとかやっていけそうです。と言っています。

**感謝の言葉**

「辻本さんがいてくれて本当に心強かったです。いつも、どうや?と声をかけてくれて、安心して相談できました。

子どもには、お陰でご飯をちゃんと食べさすことができました。

子どもは、食べられることで、母親の愛情を感じてもらえたと思います。

今まで有難うございました。」

話をしていて、泣きそうになりました。

沢山の皆さんからの支援で一組の母子家庭が支援から卒業できました。

ありがとうございました ❤️





各地の事業の工夫



## 心理的な障壁

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは

私より困っている人がいるんじゃないかな、  
私なんかが利用していいのかなという思いがあって。

昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあって。  
もう関わりたくない。



## 周囲のまなざし

プライドなのかもしれないけど、貧しい、生活が苦しいというのを周りに知られたくなくて。特に保育園の人には。



## 物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。  
平日に窓口に行く余裕がない。

フードバンクやこども食堂に行きたくても、  
ガソリン代や駐車場代を出すお金の余裕がないんです。



## 情報の伝達

どうやって支援団体に助けを求めたらいいかも、  
わかりません。

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと  
届かないし、支援自体が少なすぎる。

どうぞがつながる。  
明日につながる。  
みまたん宅食どうぞ便。

どうぞの精神が根づく町。  
三殷町。



• みまたん宅食どうぞ便とは •

「生活が大変…」、と感じるご家庭に対して定期的に食材をお届けします。三殷町にお住いの18歳以下のお子様のいるご家庭であればご利用になれます。

• どうぞ便のしくみ •



mimata-douzo.com

【お問い合わせ】社会福祉法人三殷町社会福祉協議会 TEL/FAX (0980)52-0999



LINE@  
みまたん どうぞ便  
届け  
届け



毎月定期的に食材  
お届けサービス  
が実現ります。



「一般的な宅食サービスと間違って申し込んできたご家庭もいるんですよ。目論見通りだな、と思いました

『福祉っぽくない』デザインを大事にしていました。福祉の分野では、利用者がサービスを使うことに居心地の悪さや、引け目を感じさせてしまうものや、"わざとらしい"ものが多い。利用者の立場で、一般的な感覚で利用したいと思えるデザインを検討しました」

三股町社会福祉協議会 生活支援コーディネーターの松崎さん

福島で被災し避難生活をした経験を振り返り、  
「『支援を受けている』という申し訳無さ、肩身の狭さ。従来の『支援する・  
される』という上下の関係…そういうものをデザインで変えたい」と。

たまたまいま困っている人がいれば周りがサポートする、助けている側  
が今度は助けられる立場になることもある。『横の関係』ならみんな気持ちが  
楽になるんじゃないかな。デザインと『どうぞ便』のネーミングにその思  
いを込めました」

三股町社会福祉協議会 デザイナーの吉田さん



# どうぞ便の要件は「生活が大変…」と感じていたら気軽に申し込める

## その後、相談員がヒアリングを実施して支援の趣旨を説明する

ご利用のお申し込み



ご利用のお申込み

以下のフォームにご入力いただき送信ください。  
担当より入力のメールアドレス宛てご利用についてご連絡させていただきます。

お名前\*  
三股 どうぞ

フリガナ\*  
ミマタ ドウゾウ

ご住所\*  
三股町桜山3064番地5

電話番号\*  
090-1234-5678

メールアドレス\*  
contact@mimata-douzo.com

お申込み理由\*  
生活が大変感じる理由はなんですが。

送信内容確認



「生活が大変…」と感じる家庭に対して  
定期的に無料で食材（世帯の10食分）をお届けします。  
三股町にお住いの18歳以下の子様のいる  
ご家庭であればご利用になれます。  
どうぞご利用ください。

この事業は、三股町内の社会福祉法人、ボランティア、  
社会福祉協議会等が連携しておこなっています。  
(事務局：三股町社会福祉協議会)

## 周知、申込みに関する配慮

**さまざまな課題や事情を抱える利用家庭に対して、申し込みや利用に対する心理的、物理的なハードルを下げるために、必要とされる配慮や工夫をした上で実施団体が事業を実施している実態が明らかとなった。**

利用家庭との関係性構築、つながりを作るために、どのような活動をしていますか。

(%)

現在の事業の状態として、あてはまるものをお選びください。

利用していることを周囲に知られないような配慮をしている

62.1

32.8

利用家庭とコミュニケーションがとりやすいように、LINEやメールを活用している

58.6

19.0

LINEやメール、電話など窓口以外にも申し込めるようにしている

55.2

27.6

WebページやLINEを活用し、時間外でも利用家庭が申し込めるようにしている

55.2

20.7

13.8

「貧困」「要支援」といった表現を避ける等、利用家庭の感じ方・自尊心に配慮し、チラシや事業案内を作っている

51.7

37.9

堅苦しい文章・難解な単語を避ける、文章量を最小限にする等、断念する家庭が出ないよう配慮している

50.0

41.4

利用家庭のニーズを満たす／喜んでもらえるような食品、物品を届けている

50.0

41.4

キャラクターや親しみやすいデザインを活用し、申込みの敷居を下げる工夫をしている

39.7

27.6

12.1

自分が対象か迷わないように、明確に、わかりやすい利用条件を設定している

36.2

36.2

■できている

■まあまあできている

■どちらともいえない

■あまりできていない

■できていない

# 支援が届きにくいのは、社会に様々な制約や障壁が存在するから。



## 心理的な障壁

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは

私より困っている人がいるんじゃないかな、私なんかが利用していいのかなという思いがあって。

昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあって。もう関わりたくない。



## 周囲のまなざし

プライドなのかもしれないけど、貧しい、生活が苦しいというのは周りに知られたくなくて。特に保育園の人には。



## 物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。平日に窓口に行く余裕がない。

フードバンクやこども食堂に行きたくても、ガソリン代や駐車場台を出すお金の余裕がないんです。



## 情報の伝達

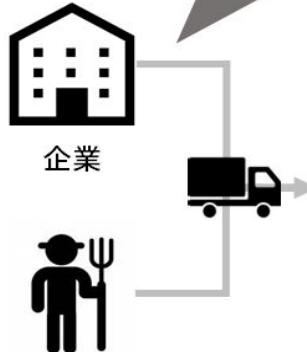
どうやって支援団体に助けを求めたらいいかも、わかりません。

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと届かないし、支援自体が少なすぎる。

# 来所型の「つなぐBANK」事業

1

農家や企業から  
米や食品を寄付してもらう



利用家庭には  
LINEで日時と  
場所を伝える

2



3

食品や学用品、  
生活用品の配布

医療や法律など  
専門的な相談

所定の日時に  
食品などを  
取りに行く

## 「支援を受けていることを知られたくない」への配慮

- そもそも開催日時と場所は利用者のみに通知、非公開
- 場所は毎回変わり、県や市の施設。宅所に来ても「困窮している家庭だ」といった周囲からの視線を受けることが無い





## 相談ブースの様子

- 相談中はボランティアによる託児スペースも



## 相談ブースへのボランティア参加：

- ・ 長崎県ひとり親家庭等自立促進センター(社会福祉士、精神保健福祉士、元SSW等)
- ・ 県や市の貸付窓口担当
- ・ 歯科医師会
- ・ 弁護士事務所
- ・ 児童心理施設(臨床心理士、看護師)
- ・ ひとり親に向け住宅相談窓口 など



工夫1

## 物理的なハードルを可能な限り取り除く

利用家庭の声

「平日は夜遅くまで仕事と家事で  
くたくたです...」



宅所の日時  
**週末に開催**

利用家庭の声

「フードバンクに行きたくても、  
駐車場台が払えない...」



会場選び  
**駐車場無料・アクセス**

## 工夫2

# 煩雑になりがちな手続をなるべく簡単に

専門相談の事前予約はLINEで簡単に、当日申込みも可。面倒な手続きを極力減らす



## 面倒な手続き

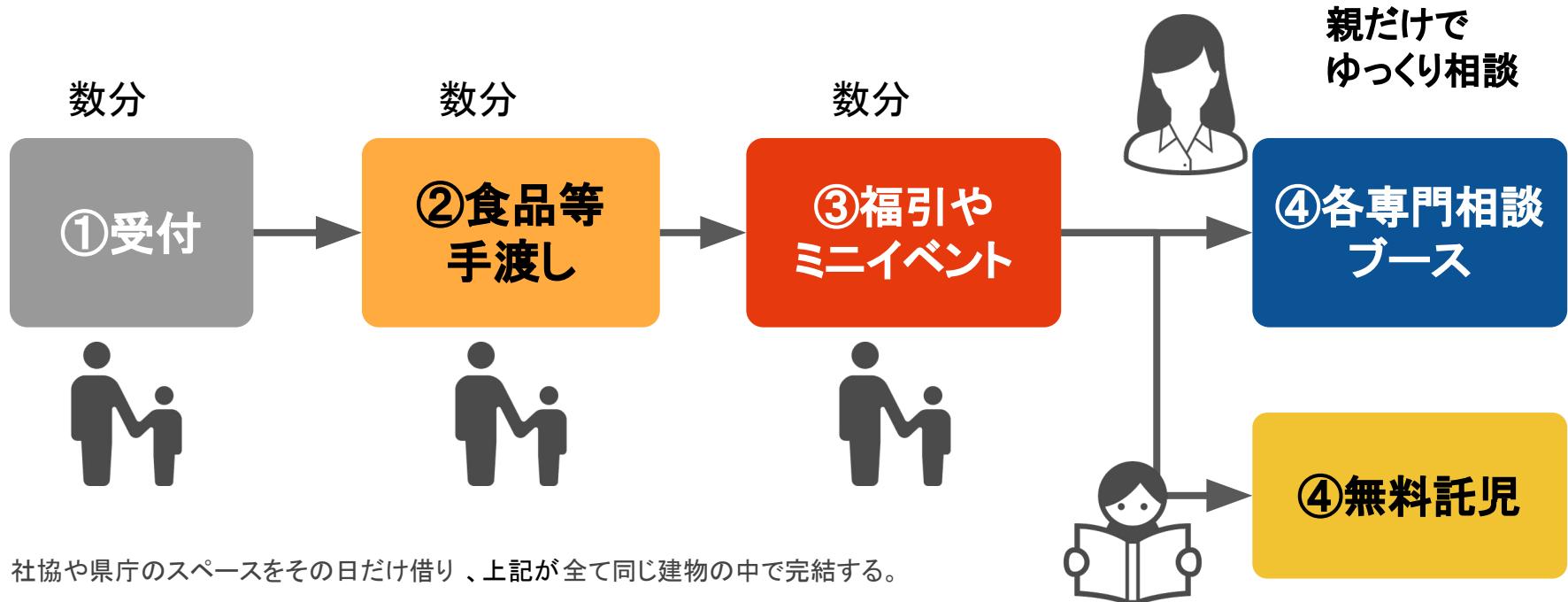


- 申請書を役所に取りに行く
- 1週間前予約が必要
- たくさんの書類の準備が必要

## 工夫3

# 当日も相談までのスムーズな接続、会場の導線

「受付」、「食品手渡し」、「託児と相談」というフローがスムーズに進む。  
全て同じ建物の中で完結する。



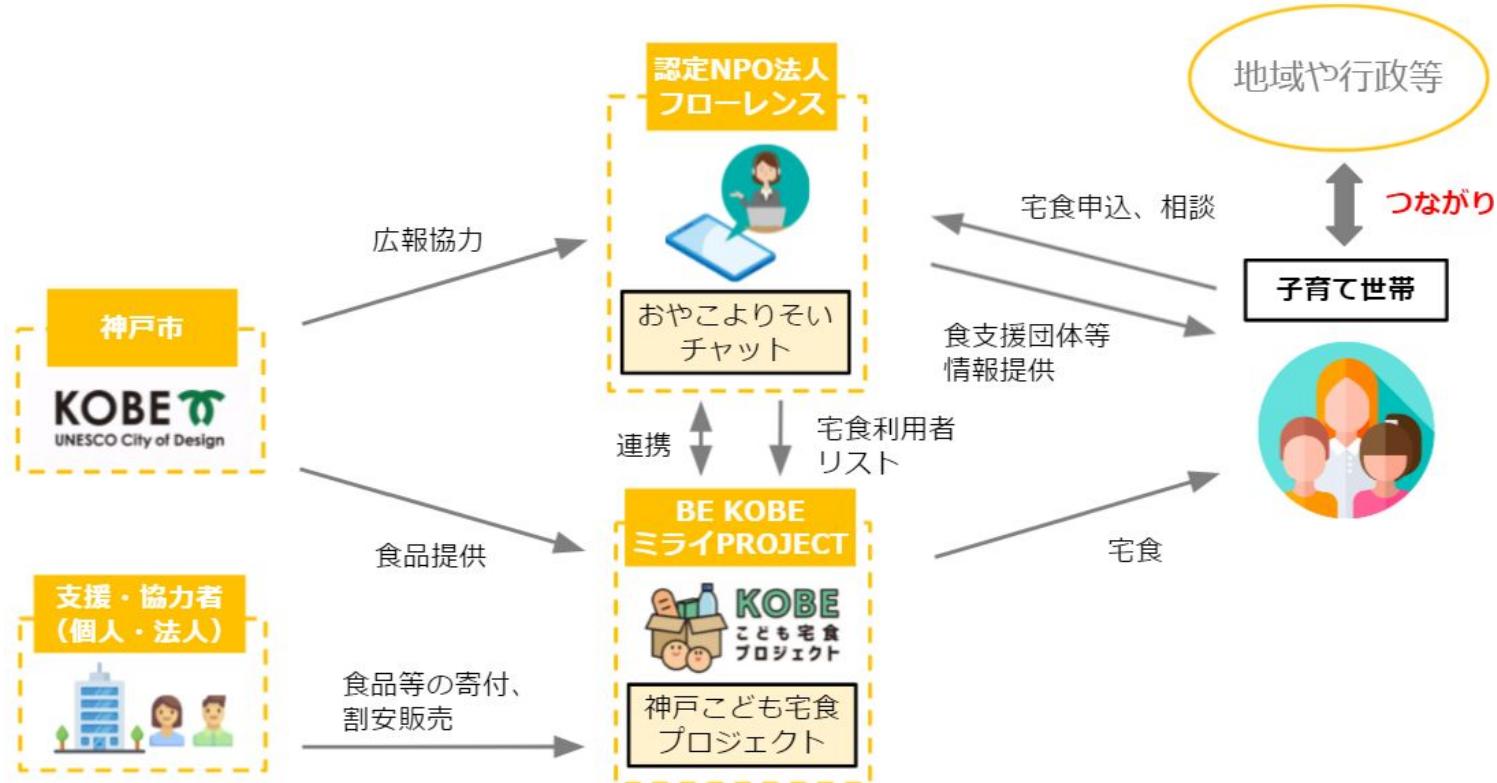
まとめると…

## ユーザー FIRST !

支援が届きにくいご家庭の置かれている状況・気持ちなどを踏まえ  
利用者目線で事業を作り、アップデートしていく



# 神戸市で実施中の「おやこよりそいチャット」



# ここでクイズです！

対象世帯層とつながるため、「どちらで遡及するか？」試験的に実施  
⇒ データでどちらが反応があるか見極めて、WEB出稿を調整

周りに同じ状況の人がいなくて、  
話せない...  
やらなきやいけないことが多すぎて、  
つらい...  
子どもが家にいることが増えて、  
食費がかさむ...

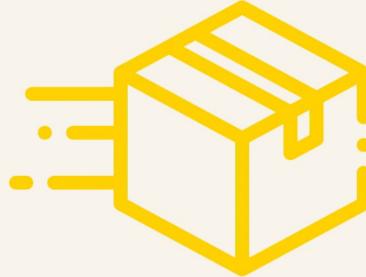
そんな時、  
おやこよりそいチャットが話を聞いて、  
一緒に考えます。



新型コロナ緊急支援  
プレ・シングルマザー&  
ファザー応援プロジェクト



親子で使いやすい  
お米やお菓子などの食品・日用品を  
ご自宅へお届けします。



新型コロナ緊急支援  
プレ・シングルマザー&  
ファザー応援プロジェクト





「もっとおもしろい取り組みを知りたい！」という方

へ

# おすすめ1「宅食以外の取り組みも知りたい」

## アウトリーチの実践に 今日から使える メソッド集

### 子ども・若者に効果的に 支援を届けるための 4つのポイント



特定非営利活動法人OVA

#### 1 支援が届きにくい実態

##### 現状

「支援が届いていない方」は、どれだけの数いるのでしょうか？  
様々な分野で調査が行われており、定量的な把握が進んでいます。

推計約4,000人 都内で居居のないネットカフェ難民(東京都, 2017)※1  
推定約18% 性被害に遭い被害を届け出した割合(法務省, 2012)※2  
約51% 自殺未遂をしたとき相談しなかった割合(日本財団, 2017)※3  
約20% 精神疾患が疑わしい状態で医療機関にかかる割合(Ishikawa et al., 2016)※4

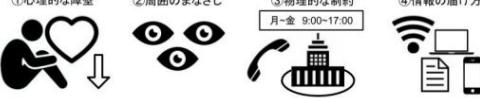
このように深刻な課題を抱えても相談できない、支援につながらない方の存在は一部把握されています。私たちはこのような「支援を必要としながら届いていない」現状のことを「声なき声」と呼んでいます。

##### 背景

なぜ深刻な問題を抱えながら、助けを求められないのでしょうか？  
私たちは、個人と環境の両面にその要因があると考えています。  
支援に関わる人の中には、「相談機関に自ら足を運ばない人もいるからアウトリーチが必要だ」「支援が本当に必要なときこそ『助けて』と言えない」「一度支援につながったけど、その後相談に来てくれなくなった」などの問題意識を持っている方もいるかと思います。

当事者が助けを求められない要因のうち、調査で特に多く回答があった内容を4つに分類しました。

- ①心理的な障壁
- ②周囲のまなざし
- ③物理的な制約
- ④情報の届け方



この冊子では、各要因の具体的な説明と乗り越えるためのポイント、そして既存の取り組みを紹介します。  
これらつの要因はそれぞれ密接に絡み合っているので、それぞれ影響しあうことを前提にご覧いただければ幸いです。

<https://www.toyotafound.or.jp/community/2018/publications/data/c9cf035764c1711788f74e811491bd6.pdf>

# おすすめ2 「10代向け」「スマホを活用」！

不登校・中退など、いろいろある10代の進路・就職相談

## ユキサキ チャット

これからのあなたの“ゆきさき”と一緒に考えるための相談窓口です。真っ暗に見えるこの先も、いくつか道があるかもしれません。進路選択の幅を、わたしたちと一緒に広げませんか？

平日  
10:00 ~ 19:00

相談  
無料

土日祝にうけとったメッセージは次の平日以降にお返事します。



A simple line drawing of a person with short hair, wearing a yellow t-shirt, looking down at a white smartphone they are holding in their hands. A speech bubble next to the phone contains the text "相談 無料".

### 03 ユキサキチャットが できること

WHAT WE CAN

＼ その1 ／

#### 幅広い 情報提供

あなたの悩みの解決をサポートする情報を提供します。奨学金や公的な制度、転校の情報や、在宅ワークを含め希望の仕事に就くための勉強方法など、さまざまな選択肢をもっているスタッフがいます。



＼ その2 ／

#### 次の一步を 考える

あなたの希望を踏まえて、これからの一歩を考えます。企業30社と提携し就職やアルバイト先や、専門的な相談先、安価で住めるシェアハウスの案内を行っています。また、食べ物やパソコンなどの給付で生活を支えます。

<https://www.dreampossibility.com/yukisakichat/>

# おすすめ3 今日ご紹介した三股町・長崎市の事例

## (1) 訪問型の「こども宅食」（事例：宮崎県三股町／50世帯）

事業説明動画（約23分）

三股町社協が事務局となり実施する「みまたん宅食どうぞ便」について、アウトリーチ型事業を始めようと思ったきっかけ、普段の宅食の活動の様子、ご家庭とのやりとりで大事にしていること、事業にかける思いを聞きました。



本資料  
**P.35-**

>> 「みまたん宅食どうぞ便」PDF資料はこちらから

▼セミナー動画「“宅所”事業から学ぶ 最初の接点作りと支援へのつなぎ～事業の入口と出口をどう設計するか？」



>> 「“宅所”事業から学ぶ 最初の接点作りと支援へのつなぎ～事業の入口と出口をどう設計するか？」  
資料はこちらから

本資料  
**P.40-**

<https://hiromare-takushoku.jp/2021/07/02/3413/>

おわりに

## こども宅食の利用家庭から頂いた声

なんとなく強がって、人の助けは借りないと今まで頑張つきましたが、時々疲れてしまうことがあります。ボランティアさんから優しく声をかけてもらうと、気にかけてくれている人がいると感じ、人に頼ることも必要だなど気付かされました。

誰かが見ていてくれているんだと思うようになり安心できました。

私が1人で抱えこんでしまっていたばかりに、子供が私に気を遣って、笑いかけたり、作り笑顔をして接してきましたが、それがなくなりました。

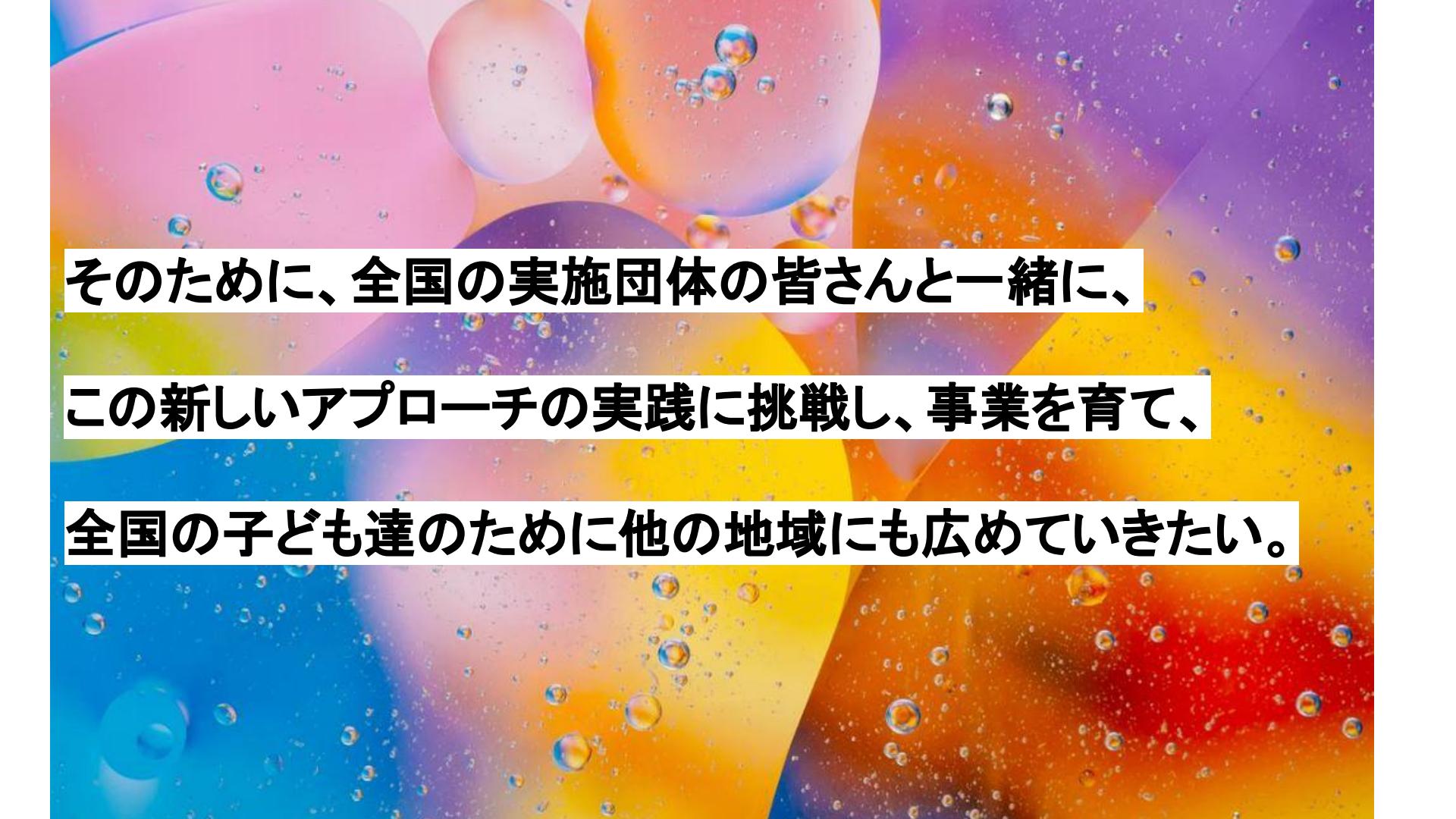


つらさを抱え、孤立する親子とつながりたい。

そして、焦らずに1本1本ずつ、

つながりの糸を地域みんなで増やしていきたい。





**そのために、全国の実施団体の皆さんと一緒に、  
この新しいアプローチの実践に挑戦し、事業を育て、  
全国の子ども達のために他の地域にも広めていきたい。**